

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

# にしあいづ物語100選 その67

文：矢部 征男

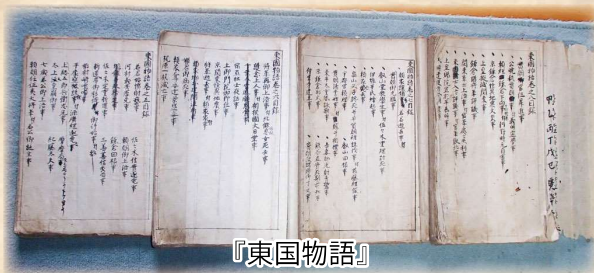
## 極入へ遠郷となった安藤有益 - 飯豊山の高さを測る -

今から300年余り前、奥川・極入へ“遠郷”となった会津藩の郡奉行がいました。その人は安藤有益といい、幼少時の名は市兵衛といいます。

有益は寛永元年（1624）、出羽国生まれで山形の最上藩から保科正之公に従い会津藩士となった人物です。算術に優れ、寛文6年（1666）の『会津風土記』作成にあたっては、村々を巡り調査をし、磐梯山・飯豊山の高さ測量も行ったといわれています。河川工事・測量にも関わり、有益が考案・作成したという測量機は今も極入集落に保管され、町指定文化財の1つとなっています。有益は得意とする算術を生かし藩財政運営に貢献して次第に重要な存在となり、64歳で郡奉行となりました。



有益が使った測量機



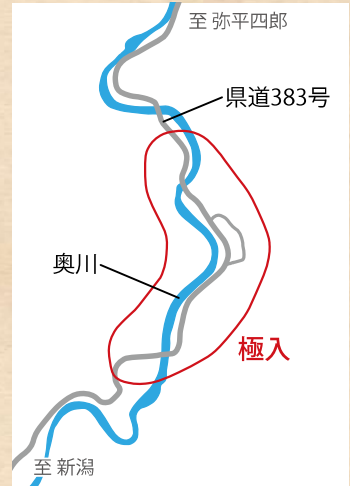
『東国物語』

当時としてはかなり高齢での就任だったと思われる。しかし間もなく、猪苗代近村での山野争いにおいて判断の誤りから処罰を受け、元禄元年（1688）10月、極入村に蟄居（屋敷の門を閉じ一室にこもらせる刑罰）を命じられたのです。しかしその間にも学問に勤しみ、暦学（当時までの暦日、日食・月食を調べ、のち『本朝統歴』としてまとめられました）や歴史の勉強を続けています。その際の歴史書『東国物語』全8巻も極入集落に遺されています。

元禄5年（1692）には罪を許されて極入の地を離れ、のち江戸普請奉行として再び藩政に携わりましたが、70歳を超える年齢ともなり、やがて若松へ戻り、宝永5年（1708）に84歳で没しています。

なお、若松へ10里（約40km）を超える地にある奥川地区には、ほかにも藩士数名の遠郷に関わる記録を見ることができます。

元禄5年（1692）には罪を許されて極入の地を離れ、のち江戸普請奉行として再び藩政に携わりましたが、70歳を超える年齢ともなり、やがて若松へ戻り、宝永5年（1708）に84歳で没しています。



8ページに取り上げたラジオ体操講習会には、取材だけでなく受講者としても参加してきました。講師の先生から教わった後のラジオ体操は、これまでよりも全身を使って運動しているように感じ、次の日は足が筋肉痛になりました。日頃の運動不足をととても痛感しています…。(秦)

### 編集後記

(2ページから関連記事)



左から三留選手、遠藤選手

今月は、第16回市町村対抗福島県軟式野球大会第1回戦の矢祭町戦から。表紙写真手前の三留選手と奥の遠藤選手は、今大会で投打に活躍した同級生コンビ。初のベスト8進出の原動力となりました。

### 今月の表紙